

◇「安藤忠雄 野獣の肖像」(2016年、古山正雄著、新潮社)、「安藤忠雄 建築を生きる」(2019年、三宅理一著、みすず書房)

安藤さんとは、私が大学4年の後半から今日に至るまで、実に半世紀に及んで親しくしていただいていることから、安藤さんの経歴に関する記事、書籍は、当時の私の印象とどう違うか、あるいはどのように同じかなどの観点から関心を持って見えています。

上記の書籍も行間に思いをはせながら、関心を持って読みました。二冊とも安藤さんの優れた評伝で、建築界で学者として実績のある著者の書下ろしという点で他の書物や記事とは一線を画しているといえます。内容も、私の安藤さんに対する印象と異なることは少なく、二冊とも好感を持って読了できました。安藤さんの活動は、初期の国内での住宅や商業施設から大きく発展して、今や世界中でプロジェクトが完成、進行しているため、その全貌をとらえることは徐々に至難のわざとなりつつあります。この二冊の本は、その安藤さんの活動をうまくカテゴリーにまとめて評伝されており、学生、建築初学者にはお勧めです。

前者は四六判変型 174 頁で、後者はA5 版 328 頁。後者はボリュームがあり、文章中心で、なかなか読みごたえがあります。時間のある人は、前者を読み、次に後者に移る、といった読み方を勧めます。